



平成26年度に取り組んだ 道徳活動を紹介

第7回「道徳のまち笠松」のつどい

講演演題

「落語国の住人たち～寄り添って生きる～」

はなし

噺家 林家 卯三郎 氏



“かさまつ いいね” 発見写真展（一般の部）受章者



平成26年度の「道徳のまち笠松」での活動を映像で紹介



林家卯三郎氏の講演

2月28日、中央公民館で7回目の「道徳のまち笠松」のつどいが開催されました。

会場となったホールの入り口では、平成26年度の「道徳のまち笠松」の取り組んだ様子をパネルで紹介しました。主な活動は、年3回実施されたあいさつ運動、トンボ天国の環境保全、鮎鮎街道ウォークでのおもてなしなどです。

また、「道徳のまち笠松」の缶バッジ400個を用意し、希望者に配布しました。

ホールの中では、情報紙の「ちょっといい話」と「モラルセンス」を掲示し、皆さんに楽しく読んでいただきました。さらに、平成26年度から開催された“かさまつ いいね”発見写真展の全応募作品を展示しました。第1回目の写真展には、一般の部と児童・生徒の部を合わせて71点の応募があり、その中から入賞作品8点を選び、表彰式を行いました。

つどいは3部に分かれ、第1部では平成26年度に取り組んだ活動の様子を映像で紹介しました。

第2部では、笠松町出身の噺家 林家卯三郎氏の講演があり、落語の多くは江戸時代に完成されたことや、逆らうことのできない身分制度のもとで、理想像が語られることを通して、落語は生きる勇気を与えていたことなどを話されました。

第3部は卯三郎氏の落語で、「子のかすがい」という人情話を、すてきな話芸の力を発揮し熱演されました。ホール満員の観客は、笑いながらも聞きほれ、家族の情の深さや大切さを再認識されたことでしょう。

つどい後のアンケートには、「落語が分かりやすく、とてもよかった」「郷土の名人をまた一人発見した感じがした」などの感想が寄せられました。